

定住者は語る 三原の魅力

海と暮らす

特集 もうひとつのふるさとさがし

キーワードは楽しみなながら

自然の豊かな島へ

町 泉 育享さん 夫妻
在 泉 絃子さん



▲海がいいなと思って佐木島に決めました

瀬戸内海に浮かぶ佐木島に泉育享さん、絃子さん夫妻が引っ越してきたのは9年前。育享さんの定年退職を機に、それまで住んでいた大阪を離れ、佐木島に移住しました。きっかけは佐木島に住んでいた育享さんの弟の孟佳さん。佐木島によく遊びにきていた

泉さんは、自然の豊かな島に魅力を感じ、孟佳さんの紹介で土地を購入しました。「この家から見ると海は、オランダで仕事をしていたときに遊びに行っていたライン川によく似ているんですよ」と家から眺める景色が一番のお

気に入りで、家ほどの部屋から海を眺めることができ設計にしました。これまで、転勤で20回以上も転居を繰り返してきたという泉さん。「ハッピーリタイヤメントという言葉があります。退職後は、住環境を変えたいと思っていきました。不安よりも、佐木島でどんな楽しみができる

かを考えました」と大きな夢を膨らませながら、新生活が始まりました。

農業に挑戦

佐木島で農業を体験してみたかったという泉さん。佐木島に住む中学校時代の恩師に偶然出会い、畑をやってみなにかと誘われて挑戦することになりました。



「慣れない作業の連続でしたが、島の人が作り方を教えてくれたり、草をとってくれたりと応援してくれました」。島の人はやさしく、通りますがりの人が畑の草をとってくれたこともあったそうです。もちろん、畑を管理するには大変な苦勞があり、イノ



▲近所の皆さんと楽しい買い物のひととき

シシにも悩まされましたが、これまでに、ジャガイモやとうもろこし、わけぎなどを収穫することができました。

現在、栽培は自宅の庭が中心。レモンやすだち、きんかんなどが色鮮やかに並び、収穫の時期を迎えています。

「楽しさ」は人との交流から

「生活を楽しむには、親しい人をどれだけ作る事ができるかです。佐木島の人は、本当に親切で、家族同然の懇意なつきあいができています」。何げないいつものあいさつから、時折あるイベントなど、近所の人たちとの交流は今の生活には欠かせません。「佐木島に住むまではなかった家族単位でのつきあい

ができています」と笑顔で語ります。

さらに育享さんは日曜大工、絃子さんは料理と、それぞれの趣味を通じて輪が広がりました。庭にあるログハウスや島のかんきつ類を使用したジャムが友達づくりのきっかけになりました。

現在、二人は海外で生活した経験を生かして、休日に島の小学生に英会話を教えています。「子どもたちに英語を好きになってもらいたくて始めました。みんなまじめで、休む子はほとんどいません。小学校を卒業するとき、中学生になって一番頑張りたいのは英語と言ってくれたときはうれしかったですね」と語ります。子どもたちとの関わりは二人のいきがいになっています。

「島の子どもたちは、とても元気がいいですね。引っ越して来て、顔が分からなくても自然にあいさつをしてくれました」という島の風土。島での生活は不便なこともありますが、考え方ひとつだという泉さん。豊かな自然と温かい人とのつながりがある佐木島には、泉さんが語る「楽しさ」があると感じます。

定住者は語る 三原の魅力

山と暮らす

めぐりあえた最高の場所

馬との出会い



▲大和町にしかない自然の恵みや人の温もりに支えられています

平成14年に大和町に移住し、乗馬クラブを経営する福山市出身の荻谷さん。「父が馬術をしていた関係で3歳くらいから馬小屋に行つて馬に乗っていました。気付けば馬の出会いを振り返ります。馬術の修行のために、京都の高校に進学し、オリンピックに4度の出場経験があり、アテネ

大和町在住
 荻谷 幸生さん
 荻谷 聡美さん
 荻谷 菜美ちゃん

五輪で全日本チームの監督も務めたことのある東良弘一さんに弟子入りしました。馬術は競技生活が長いスポーツで、東良さんも60歳を過ぎた今でも現役で活躍中です。荻谷さんは京都で11年間過ごし、国体のために移った岡山の乗馬クラブでの3年間を

経て、大和町に移住しました。その間、さまざまな馬術競技に出場し、平成13年にアジア選手権優勝、平成18年国体優勝など輝かしい成績を収め、聡美さんも馬を通じて知り合いました。

大和町に移住して

移住に際しての土地探しは、馬にいい環境づくりができるということでの今の場所に決めました。夏



涼しく、冬に寒く、川が近くにあつて、交通の便がいいという最高の土地が見つかりました。

大和町は昔、馬がたくさんいた地域で、高齢者の中には馬を飼っていたという人もいます。山の中に草競馬をしてきた所が今でも残っています。生活の中に馬がとけこんでいる地域だったため、親しみをもって乗馬クラブを受け入れてくれました。

地元の人とのつきあひも、肥料として馬糞をあげれば、野菜を持つて来てくれるという都会では見られない、いい関係ができています。近所に

は、高齢の人も多くこちらが気を遣う立場なのに、逆にいろいろの気にかけてもらっています。

荻谷さんに移住するときの不安について尋ねると「夏は朝6時から夜の10時まで馬の世話があり、馬の体調管理のことで頭がいっぱいで、不安に思う暇がなかったです」と語ります。

馬を通じてのふれあい

荻谷さんは、毎年9月に榎梨小学校の児童を招いて、乗馬教室を開いています。この乗馬体験は、馬とのふれあいで、尊い命があることを知り、愛情を持つて動物と接す



る大切さを学んでもらうため、移住した5年前から実施しています。「馬に乗る子どもたちの喜ぶ顔が見られるのうれしいです」と児童からのお礼の色紙を見ながら荻谷さんの顔に笑顔があふれます。

荻谷さんは、ドイツで専門家の講習を受け、ドイツのホースセラピーの認定書を得し、馬と人とのふれあいの場も提供しています。「馬に乗ると温かさが伝わります。触るだけでなく、乗ることができるのが他の動物と違うところです」と馬の魅力について語ります。

環境にも人にも恵まれて

5年前、3頭の馬からスタートした乗馬クラブも現在は20頭になり、スタッフ2人と家族3人で仲良くやっています。

「ここには、馬にいい環境・自然、人の温かさ、すべてそろっています。地元の人とのふれあいに、馬が潤滑油になつてくれました。まわりの人に支えられて今があります」と感謝の気持ちで荻谷さんから伝わります。

特集 もうひとつのふるさとさがし

観光ツアーで巡った 三原の魅力を紹介

三原にじっくりと滞在して、魅力を体験する「滞在型体験ツアー」が10月27日(土)から30日(火)に実施されました。このツアーには市外に住む7人が参加。三原の観光名所などを巡るとともに、県立広島大学との連携による健康セミナーや、佐木島での地元の人との交流、砂浜ウォークを体験しました。ツアーで巡った三原の魅力と参加者の声をご紹介します。

気分は大学生！

参加者は大学に到着早々に教室に入り、講義を受けます。内容は「生活習慣病の予防」や「リラクゼーション」をテーマにした特別講義と健康チェック。大学生気分



▲体力測定中 「このまま腕を前に伸ばしてくださいね」

を味わいながら、表情は真剣そのものです。大学の見晴しおすすめスポットでは、瀬戸大橋を遠望できる眺めのよさに感嘆の声があがっていました。

佐木島 自然海岸で砂浜ウォーク

瀬戸内海の景色を楽しみながら、フェリーで佐木島に移動。佐木港に到着すると、「さぎしまを愛するボランティアガイド」の人たちから熱烈的な歓迎を受けました。その後参加者は、標高267.5m、山頂から瀬戸内海の絶景を望める大平山に登るグルー

プと、海岸沿いを歩きながら島の名所巡りや自然観察をするグループに分かれて、砂浜ウォークの舞台となる長浜海岸に向かいました。海岸では、県立広島大学の犬塚彰教授や沖貞明教授、金井秀作准教授から、「目線は遠くに、胸を張り、ももを上げながら歩いてください」などとアドバイスを受けながら、学生とともに砂浜ウォークを楽しみました。



▲海、山、空に囲まれて、砂浜ウォークで気分そう快

歴史にふれる旧城下散策

観光ガイドのアゼリアガイドによる城下町を巡るウォークにいざ出陣。「自然に触れて過ごしたため疲れが残っていない」と元気なようすの参加者たちは、JR三原駅北側の小早川隆景像の前からウォークをスタートし、日本一の規模をもつ天主台、本丸中門跡、船入櫓などを見学し、城下町の名残を色濃く残す町並みを楽しみました。



▲ガイドの説明に聞き入る参加者たち

だるま作りを体験

三原だるま工房の久保等さんから熱心に作り方を聞く参加者たち。三原だるまの特徴である豆絞りはちまき、眉

や目を描き込み、完成しただるまを土産として持ち帰りました。



▲伝統の三原だるま作りから広がった笑顔の輪

参加者は語る 三原の魅力

健康づくりにびったり！

昨年もこのツアーに参加しました。佐木島の砂浜ウォークでは、大学の科学的な研究をもとに歩行ができて勉強になりました。(神戸市から夫婦で参加)

海と山の美しさはまるでドラマの世界！

心のこもったもてなしで迎えてくれて、とてもやすらぎました。こんなにきれいな海と山はドラマみたいで、このツアーならではの魅力です。(北海道から参加)

特集 もうひとつのふるさとさがし

交流・定住対策に 取り組んでいます

三原市の人口は減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。人口の減少により地域社会の活力の低下、防災・福祉面における集落機能の低下、農業の後継者不足などさまざまな問題が生じています。これらの問題を解消するため、定住希望者に対して三原市の魅力をPRし、交流・定住を促進する対策が必要となります。

市は現在、空き家情報、定住に必要な情報や地域の情報の収集・発信、定住に関する問い合わせの対応、ホームページでの情報発信などを行なっています。

定住促進施策

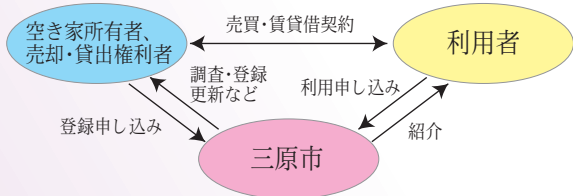
○空き家を有効活用し、地域を活性化する空き家バンク制度

市内の空き家を有効活用するため、空き家バンク制度による物件の登録を呼びかけています。また、社団法人広島県宅地建物取引業協会と連携し、登録物件の充実を図り、定住希望者のニーズに応えます。

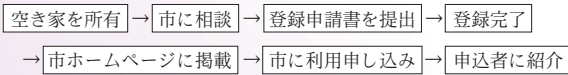
制度の内容

市内にある空き家をその所有者などの申し込みにより市に登録し、空き家の利用を希望する人に物件を紹介し、売買および賃貸借契約は、

【制度のイメージ図】



【物件登録から紹介までの流れ】



空き家の所有者などと利用申込者の間でかわすこととなります。

情報発信

○ホームページ「交流・定住情報コーナー」の開設

住まい、就労、暮らしの情報、移住者の紹介など定住する際に必要となる情報を集約したコーナーを市ホームページに開設しました。「三原市イチ押し！各種支援制度・施策の紹介」や「移住者の紹介」など定住希望者にとって魅力的な情報を発信していきます。

ふるさと三原のよさを 再発見！三原が好き！ この気持ちがまちづく りの第一歩

三原のよさにひかれて定住した人たちは、海とともに山とともに暮らしながら地域のひととのふれあいを通して、すっかりその土地にとけこんでいます。季節ごとに変わる美しい景色、住んでいる人の温かさ、おいしい食べ物、穏やかな気候、彼らが語ってくれる言葉には、三原を愛する気持ちがあふれています。

定住促進総合窓口



▲12月1日に開設！三原の魅力や定住情報を発信します

定住に関する問い合わせや相談、空き家バンクの物件登録・紹介、アドバイスなど、常時相談に応じています。



交流・定住促進に関する問い合わせ先 地域振興課 ☎0848⑦6187 FAX0848⑦6199

定住者の目を通して見る三原の魅力は、私たちにたくさんのお話を聞かせてくれます。

観光の滞在型体験ツアーや、定住促進事業を通して、三原の魅力を知ってもらおう施策を展開しています。

三原のよさをもっと多くの人に知ってもらいたい、三原をより多くの人に訪れてもらいたい、その人たちが三原を気に入って新しい暮らしを始めることは、交流の輪の広がりであり、私たちの暮らしに新しい風を吹き込んでくれます。

三原が好きという思いがまちづくりの第一歩です。

ふだんそこにあるのが当たり前前の風景、何気なく接している人たち、私たちが過ごしている日常の中にも、三原のよさがたくさんあるはず。それに気付くことが大切です。三原を好きな人が増えることが、活気のある元気なまちづくりにつながります。

見過ごしてしまいがちな日常のできごとや風景を、今一度見つめ直し、三原の魅力を再発見してみませんか。